

**SPOTY 2009**

Software Product Of The Year 2009

# ソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー<sup>®</sup>2009

## 募集要領

2009年6月

独立行政法人 情報処理推進機構

2009年7月1日 改定

## ソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー®とは、

国内で流通している申請されたソフトウェア・プロダクトの中から、年間を通じて最も優秀なソフトウェア・プロダクトを、その年の「ソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー®」として表彰するものです。

本賞は、ソフトウェア・プロダクトの開発者等を称えることにより、より一層の開発意欲を高め、多くの良質なソフトウェア・プロダクトの供給を促進し、市場の拡大及び充実を図ることを目的に平成元年に創設され、今年で21回目を迎えます。

より多くの優れたソフトウェアが日本発のソフトウェア・プロダクトとして世界に羽ばたき、ソフトウェア・プロダクト市場の発展に貢献することを期待しております。

### 1. 表彰

【ソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー®2009 グランプリ】

【ソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー®2009】

「ソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー®2009 グランプリ」はソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー®2009 受賞ソフトウェア・プロダクトの中で、テクノロジー、アイデア、ビジネス等すべてにおいて特に価値のあるソフトウェア・プロダクトに対して贈呈します。



## 2. 募集要項

### (1) 募集対象

2008年から2009年までの過去1年程度の期間内で、国内において広く利用され、流通されているソフトウェア・プロダクト。

[パッケージ・プロダクトのみならず、組み込み系ソフトウェア・プロダクトやオープンソースソフトウェアも対象となります。また、ASP<sup>1</sup>やSaaS<sup>2</sup>として提供されるものも含まれます。ただし、コンテンツ(例:映画、音楽)のみやゲームは対象としません。なお、公序良俗に反するものは審査から除外いたします。]

#### ①産業・企業・行政 分野

[産業向け、企業向け、行政向けソフトウェア・プロダクト]

(例)CAD<sup>3</sup>、CAM<sup>4</sup>、CIM<sup>5</sup>、CAE<sup>6</sup>、構造解析ソフトウェア、技術計算ソフトウェア、企業向けソフトウェア(ERP パッケージ<sup>7</sup>、SCM システム<sup>8</sup>、HRM システム<sup>9</sup>等)、自治体向けソフトウェア(電子申請、住民情報サービス、医療・福祉・介護等)など

#### ②家庭・個人 分野

[家庭や個人の生活において利用に適したソフトウェア・プロダクト]

(例)教育・教養ソフトウェア、モバイル(携帯電話、PDA等)ソフトウェアなど

#### ③安心・安全 分野

[コンピュータを安心して使えるようにするソフトウェア・プロダクトおよび安全な生活に資するソフトウェア・プロダクト]

(例)ウイルス対策ソフトウェア、スパム対策ツール、情報漏えい対策ツール、生体認証ツールなど

#### ④システム・基盤 分野

[OS・言語等や通信・ネットワークソフトウェア、コンピュータシステムの運用・管理業務に資するソフトウェア・プロダクト]

(例)OS(Linux、UNIX等)・言語・ユーティリティー等、通信・ネットワークソフトウェア(IPV6<sup>10</sup>、VPN<sup>11</sup>、ストリーミング等)、運用管理システム(ITIL<sup>12</sup>、コンテンツ管理、ホスティング)など

**注意:一つのソフトウェア・プロダクトで複数分野への申請は出来ません。必ず該当する分野を一つ選んでください。**

<sup>1</sup> Application Service Provider の略、アプリケーションソフトの利用をインターネット経由でサービスする事業者。

<sup>2</sup> Software as a Service の略、ソフトウェアの機能のうち、ユーザが必要とするものだけをサービスとしてインターネット経由で提供するようにしたソフトウェアの配布形態。

<sup>3</sup> Computer Aided Design の略、コンピュータ支援設計プロダクト。

<sup>4</sup> Computer Aided Manufacturing の略、コンピュータ支援製造プロダクト。

<sup>5</sup> Computer Integrated Manufacturing の略、コンピュータ統合生産管理システム。

<sup>6</sup> Computer Aided Engineering の略、工業製品の設計・開発工程を支援するコンピュータシステム

<sup>7</sup> Enterprise Resource Planning package の略、企業の経営資源を有効に活用し経営を効率化するために、基幹業務を部門ごとではなく統合的に管理するためのソフトウェアパッケージ。

<sup>8</sup> Supply Chain Management system の略、原材料の調達から製造、流通、販売までの一連の流れを管理して、サプライチェーン全体の動きを見ながら、経営判断の迅速化を図る意思決定支援システム。

<sup>9</sup> Human Resource Management system の略、採用・開発・配置・評価・処遇といった社員のライフサイクルと経営戦略とをうまく連動させながら、より合理的で戦略的な人材活用を行う人事管理システム。

<sup>10</sup> Internet Protocol Version 6 の略、インターネットプロトコル(IP)IPv4 をベースに、管理できるアドレス空間の増大、セキュリティ機能の追加、優先度に応じたデータの送信などの改良を施した次世代インターネットプロトコル。

<sup>11</sup> Virtual Private Network の略、通信事業者の保有する広域 IP 通信網を経由して構築される仮想私設通信網。

<sup>12</sup> IT Infrastructure Library の略、イギリス政府が策定した、コンピュータシステムの運用・管理業務に関する体系的なガイドライン。

(2) 応募資格

ソフトウェア・プロダクトを独自に開発、または販売を行っている法人又は個人。

〔共同開発の場合は、ソフトウェア・プロダクトの企画、開発等の主体が国内企業の場合を対象といたします。〕

(3) 募集期間

2009年6月15日(月)から2009年7月31日(金) 12:00まで(郵送の場合も同じ)

(4) 主催/後援等

【主催】 独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA)  
【後援】(予定) 経済産業省、朝日新聞社、株式会社アスキー・メディアワークス  
日刊工業新聞社  
【協力】(予定) 社団法人 企業情報化協会  
社団法人 組込みシステム技術協会  
社団法人 コンピュータソフトウェア協会  
社団法人 情報サービス産業協会  
財団法人 ソフトウェア情報センター  
社団法人 電子情報技術産業協会  
社団法人 日本コンピュータシステム販売店協会  
社団法人 日本情報システム・ユーザー協会  
財団法人 日本情報処理開発協会  
特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会

(5) 提出資料

所定の「ソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー®2009 申請書」(様式1)に記入し、審査の参考となるカタログ等の資料を添付してください。

注意: 申請書類は返却いたしません。

なお、「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(平成13年法律第140号)」が施行されており、当機構もその対象となりますが、機密保持には充分配慮します。

(6) 応募方法

所定の「ソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー®2009 申請書」を、独立行政法人情報処理推進機構(以下、IPAという)のWEBページ(URL: <http://www.ipa.go.jp/software/oftheyear/2009/boshu.html>)よりダウンロードし、必要事項を記入の上、審査の参考となるカタログ等の資料を添付して、E-mail または郵送にて応募してください。なお、カタログ等の資料を郵送される場合は各20部ご送付ください。

**【E-Mailの場合(以下のアドレスにお送り下さい。】**

**spoty2009@ipa.go.jp**

**【郵送の場合(2009年7月31日(金)12時必着ですのでご注意ください。】**

〒113-6591

東京都文京区本駒込2丁目28番8号 文京グリーンコートセンターオフィス16階

独立行政法人 情報処理推進機構

ソフトウェア開発事業部 ソフトウェア開発グループ

ソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー®2009 事務局まで

### 3. 審査

#### (1) 選定

提出された申請書類による書類審査(第一次)、デモンストレーション等の実演審査(第二次)の二段階に分けて行い、この審査結果に基づき最終選定を行います。

審査は、学識経験者・有識者で構成されるソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー®選定委員会(委員長:安田 浩 東京電機大学 未来科学部 情報メディア学科 教授)及びソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー®選定ワーキンググループにおいて厳正かつ公正に審査します。

#### ～ソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー®選定委員～

(敬称略、五十音順)

委員長	安田 浩	東京電機大学 未来科学部 情報メディア学科 教授
委員	宇陀 栄次	株式会社 セールスフォース・ドットコム 代表取締役社長 兼 米セールスフォース・ドットコム 上級副社長
	遠藤 諭	株式会社 アスキー・メディアワークス アスキー総合研究所 所長
	大島 信幸	株式会社 日立製作所 情報・通信グループ 経営戦略室 渉外統括本部 主管 (財団法人インターネット協会 理事)
	大塚 裕司	社団法人 日本コンピュータシステム販売店協会 会長 (株式会社 大塚商会 代表取締役社長)
	山名 早人	早稲田大学 理工学術院 教授
	和田 成史	社団法人 コンピュータソフトウェア協会 会長 (株式会社 オービックビジネスコンサルタント 代表取締役社長)
	和田 英男	特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会 副会長 (ERP 研究推進フォーラム 理事長)

#### ～ソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー®選定ワーキンググループ委員～

(敬称略、五十音順)

主査	山名 早人	早稲田大学 理工学術院 教授
委員	宇佐美 慎治	株式会社 OSK 代表取締役社長
	木村 玲美	IT コーディネータ (浜松総務部 有限会社 代表取締役)
	鈴木 友峰	株式会社日立製作所 情報・通信グループ ソフトウェア事業部 企画本部 マーケティング企画部担当部長兼 OSS 推進センタ長
	中道 泰隆	株式会社 リード・レックス 経営企画室 室長
	西田 宗千佳	フリージャーナリスト
	長谷川 秀樹	株式会社東急ハンズ IT 物流企画部 部長

## (2) 選定基準

選定は、次の観点から総合的に審査いたします。

賞の主旨(オブ・ザ・イヤー)への合致度(販売実績や産業・社会へのインパクト等により、その年に注目を集めた日本発のソフトウェア・プロダクト)を、下記4つの選定基準により評価します。

### (2)-1 選定基準

- ①新規性(革新性・可能性)
- ②利便性(操作性)
- ③有用性(品質、性能、安全性)
- ④利用(販売)実績

### (2)-2 募集分野別の重視する基準

募集分野ごとに、下記の選定基準を重視いたします。

募集分野	重視する選定基準
産業・企業・行政分野	利用(販売)実績
家庭・個人分野	利便性(操作性)
安心・安全分野	有用性(品質、性能、安全性)
システム・基盤分野	新規性(革新性・可能性)

特に新規性が高いソフトウェア・プロダクトについては、上記の選定基準にかかわらず受賞プロダクトとして選定する場合があります。

## (3) 選定、審査に必要な資料請求等

選定にあたって、追加資料の提出、説明及びデモンストレーション(9月10日(木)~11日(金)を予定)をお願いする場合がありますので、ご了承の上、応募して下さい。

また、申請書等の記載に誤りや他の権利等の侵害があると判明した場合は、発表後であっても贈賞を取り消し、または留保することがあります。

## 4. 公表・表彰等

### (1) 公表

選定されたソフトウェア・プロダクトについては、2009年10月上旬にIPAホームページで公表するとともに、応募者全員に結果を通知いたします。

### (2) 表彰

受賞ソフトウェア・プロダクトに対しては、表彰式[2009年10月下旬]において「表彰状」と「記念品」を授与いたします。

## 【特典】

受賞ソフトウェア・プロダクトに対しては、その他、以下の特典があります。

①	受賞マークの使用	<p>【ソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー®2009 グランプリ】</p>  <p>【ソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー®2009】</p> 
②	IPA の Web サイト ( <a href="http://www.ipa.go.jp/">http://www.ipa.go.jp/</a> )での受賞ソフトウェア・プロダクトの紹介 <sup>13</sup>	
③	ソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー®広報リーフレットへの掲載	

## (3) スケジュール

〔選定期間〕	.....	2009年8月上旬～9月上旬
デモンストレーション	.....	2009年9月10日(木)～11日(金)[予定]
〔選定結果・公表〕	.....	2009年10月上旬[予定]
〔表彰式〕	.....	2009年10月下旬[予定]

## (4) お問い合わせ先

ソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー®2009 に関するお問い合わせは、下記問い合わせ先に E-mailにてお願いします。

問い合わせ先:

IPA ソフトウェア開発事業部 ソフトウェア開発グループ  
ソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー®2009 事務局  
E-mail: [spoty2009@ipa.go.jp](mailto:spoty2009@ipa.go.jp)

## 5. 申請書記載要領

### (1) 申請書記入上の注意

記入にあたってはワープロ等を使用し、日本語で正確に記述してください。文字の大きさは10ポイント以上とします。用紙サイズはA4です。Adobe Acrobat(pdf)、Microsoft Word(doc)、OpenOffice.org Writer(odt)、RTFのいずれかのファイル形式で作成してください。

文中の造語、略語、専門用語については定義を記述してください。初出時に注釈として示すか、用語一覧等に整理して記述してください。

添付フォーマット【様式-1】を用いて、以下の事項を簡潔明瞭に分かりやすくまとめ、7ページ以内で作成してください。「○」の事項について記載事項が無い場合は、空欄のままにせず、「特記事項なし」と必ず記入してください。  
(内容が不明な簡略記入、未記入の項目がある場合は審査対象外となる場合があります。)

<sup>13</sup> 約1年間

- ① プロダクト名
- ② 応募分野  
 注意:一つのソフトウェア・プロダクトで複数分野への申請は出来ません。必ず該当する分野を一つ選んでください。
- ③ 会社名
- ④ 代表者名
- ⑤ 所在地
- ⑥ 設立月日
- ⑦ 資本金
- ⑧ 従業員数
- ⑨ 直近の売上高
- ⑩ URL
- ⑪ 連絡担当者(所属部署、役職、氏名、TEL、FAX、e-mail)
- ⑫ 今回の応募に至ったポイント
- ⑬ 今後のご案内の有無
- ⑭ ソフトウェア・プロダクト概要  
 ○ 機能・特徴・用途を簡潔に説明し、参考となる資料掲載のサイトがある場合は、アドレスを記載してください。
- ⑮ プロダクトの優位性  
 ○ ソフトウェア・プロダクトの機能、その機能を実現した技術的な新規性(革新性・可能性)を具体的に記載してください。(具体的な数値情報があれば明記してください。)  
 ○ ソフトウェア・プロダクトの特徴(セールスポイント)[利便性(操作性)、有用性(品質、性能、安全性)]について、具体的に記載してください。(具体的な数値情報があれば明記してください。)  
 ○ 競合するソフトウェア・プロダクトとの比較・競争力(①競合製品名・企業名、②競合製品と応募製品の性能・価格等の比較)を具体的に記載してください。  
 注意:組込みソフトウェア・プロダクトについては、ソフトウェアが担っている機能等について記載してください。
- ⑯ 主な用途及び実績等  
 ○ ソフトウェア・プロダクトの主な用途(利用目的、適用分野、対象としている利用者層等)を記載してください。  
 ○ ソフトウェア・プロダクトの供給形態[代表的な供給(販売)チャネル、サービス体制等]を記載してください。  
 ○ ソフトウェア・プロダクトの販売(ダウンロード数)実績[主要販売先、本数(ダウンロード数)、販売金額(ユーザー数)等]  
 注意:ソフトウェア・プロダクトの販売(公開)時期、直近 3 カ年の実績(ダウンロード数等)や伸び率、累計は必ず記載してください。また、可能な限り市場シェア(カテゴリを明記)を記載してください。  
 組込み系ソフトウェア・プロダクトについては、具体的に導入されている商品名等を記載してください。また、過去 3 カ年の実績・伸び率がわかるように、具体的に記載してください。なお、開示(記載)できない場合は、審査対象外となる場合がありますので、ご理解くださいますようお願いいたします。
- 海外展開の実績、今後の戦略  
 ○ ソフトウェア・プロダクト利用者(ユーザー)の評価等があれば記載してください。
- ⑰ 開発関係  
 ○ ソフトウェア・プロダクトの開発経緯(開発の動機、目的、狙い)と履歴(バージョンアップ情報)  
 注意:オープンソースソフトウェアの使用や企業買収によるソフトウェアの使用がある場合は、具体的に記載してください。共同開発の場合は、共同開発者との具体的な役割及び寄与度を記載してください。  
 また、知的財産権(特許権、著作権等)について、応募者と異なる場合は、その権利関係も明記してください。
- ⑱ インパクト等  
 ○ ソフトウェア・プロダクトの産業・社会へのインパクトを記載してください。特に、この一年程度の期間においてソフトウェア・プロダクトが与えた影響度を具体的に記載してください。
- ⑲ 動作環境  
 ○ ソフトウェア・プロダクトの動作環境(OS、前提となるソフトウェア、ハードウェア構成等)を記載してください。
- ⑳ 本賞への応募歴  
 ○ 過去に本賞へ応募したことがある場合には、その応募年度を記載してください。

# 「ソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー® 2009 申請書」

申込日 平成 21 年 月 日

※簡潔明瞭に分かりやすくまとめ、7ページ以内で作成してください。

プロダクト名					
分野 <small>(該当する番号に○印)</small>		①産業・企業・行政 分野 ②家庭・個人 分野 ③安心・安全 分野 ④システム・基盤 分野  注意：一つのソフトウェア・プロダクトで複数分野への申請は出来ません。必ず該当する分野の一つを選んでください。			
会社名 <small>(グループ名等)</small>	(フリガナ)	代 表 者	役 職	氏 名	
				(フリガナ)	
所在地	〒				
設立年月	西暦	年	月	資本金	百万円
従業員数	人		直近の売上高	( 年 月 ~ 年 月)	百万円
URL	http://				
連 絡 担 当 者	所 属 部 署		役 職	TEL	
				FAX	
	氏名	(フリガナ)		e-mail	
今回の 応募に至った アピールポイント	応募されたプロダクトが、2009年のソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー®に相応しいプロダクトである根拠を簡潔に記載してください。(例えば、新規性・利便性・有用性・利用(販売)実績等。尚、詳細については次項以降の項目で述べてください。)				

独立行政法人 情報処理推進機構(IPA)は、当機構の事業活動に関してのお知らせやご意見募集をメールで行っております。

上記のメール配信について同意される場合は、以下にメールアドレスをご記入ください。

E-mail \_\_\_\_\_

※応募者の個人情報の管理につきましては、IPA ホームページ

(URL: <http://www.ipa.go.jp/about/privacypolicy/index.html>) のプライバシーポリシー及び個人情報保護をご参照ください。

ソフトウェア・プロダクトの概要	<p>○機能・特徴・用途を簡潔に説明し、参考となる資料掲載のサイトがある場合は、アドレスを記載してください。</p>
プロダクトの優位性	<p>○プロダクトの機能、その機能を実現した技術的な新規性(革新性・可能性)を具体的に記載してください。 (具体的な数値情報があれば明記してください。)</p> <p>○プロダクトの特徴(セールスポイント)[利便性(操作性)、有用性(品質、性能、安全性)]について、具体的に記載してください。(具体的な数値情報があれば明記してください。)</p>

プロダクトの優位性

○競合するプロダクトとの比較・競争力(①競合製品名・企業名、②競合製品と応募製品の性能・価格等の比較)を具体的に記載してください。

注意:組込みソフトウェア・プロダクトについては、ソフトウェアが担っている機能等について記載してください。

主な用途および実績等

○プロダクトの主な用途(利用目的、適用分野、対象としている利用者層等)を記載してください。

○プロダクトの供給形態[代表的な供給(販売)チャネル、サービス体制等]を記載してください。

○プロダクトの販売(ダウンロード数)実績〔主要販売先、本数(ダウンロード数)、販売価格(ユーザー数)等〕

注意:プロダクトの販売(公開)時期、直近 3 年の実績(ダウンロード数等)や伸び率、累計は必ず記載してください。また、可能な限り市場シェア(カテゴリを明記)を記載してください。

組込み系ソフトウェア・プロダクトについては、具体的に導入されている商品名等を記載してください。また、過去 3 年の実績・伸び率がわかるように、具体的に記載してください。なお、開示(記載)できない場合は、審査対象外となる場合がありますので、ご理解くださいますようお願いいたします。

また、販売価格につきましても競合する他社との比較においてモデルとなるケース(例:ユーザー数 100 を想定した場合等)を記載願います。

主  
な  
用  
途  
お  
よ  
び  
実  
績  
等

○海外展開の実績、今後の戦略

○プロダクト利用者(ユーザー)の評価等があれば記載してください。

開発関係	<p><u>○ソフトウェア・プロダクトの開発経緯(開発の動機、目的、狙い)と履歴(バージョンアップ情報)</u></p> <p>注意:オープンソースソフトウェアの使用や企業買収によるソフトウェアの使用がある場合は、具体的に記載してください。共同開発の場合は、共同開発者との具体的な役割及び寄与度を記載してください。また、知的財産権(特許権、著作権等)について、応募者と異なる場合は、その権利関係も明記してください。</p>
インパクト等	<p><u>○ソフトウェア・プロダクトの産業・社会へのインパクトを記載してください。(特に、この1年程度の期間において、ソフトウェア・プロダクトが与えた影響度を具体的に記載してください。)</u></p>
動作環境	<p><u>○ソフトウェア・プロダクトの動作環境(OS、前提となるソフトウェア、ハードウェア構成等)を記載してください。</u></p>

本賞への応募歴	○過去に本賞へ応募したことがある場合には、その応募年度を記載してください。
添付資料	[カタログ、学会誌記載記事等] (応募書類および添付資料は返却いたしません。)
下記のアンケートにご協力ください。(広報活動の参考とするもので、審査には一切関係ありませんが、必ず記入をお願いします)	
<b>ソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー®2009 の募集について、何で知りましたか？ 該当する数字を○で囲んでください(複数回答可)</b>	
(1) IPAホームページ (2) IPAからのお知らせ(メールニュース) (3) 経済産業省、経済産業局等からのお知らせ (4) 協力関係機関等[(社)企業情報化協会、(社)組込みシステム技術協会、(社)コンピュータソフトウェア協会、(社)情報サービス産業協会等]からののお知らせ (機関名: ) (5) 各種メルマガ (メルマガ名: ) (6) 知人・友人から聞いた (7) 上司・同僚から聞いた (8) その他 ( )	